



monologue

日本製を作る職人にスポットライトを！

モノログのコンセプトは高品質で伝統的な日本製の時計や、めがねを作る職人にスポットライトが当たる事を応援する事です。
そして多くのユーザーに、これらの商品をお届けする事を目標としています。





monologue

設計・組立て



”

「日本製とは」と常に意識し、丁寧な設計をする

ENGINEER 小林 知之

弊社の時計設計は、“日本製とは”にこだわりを持って取り組んでおります。この日本製とはという定義は大変難しいですが、次の内容につきると想っています。

- 1, デザイナーの意志を出来る限り忠実に再現する事
- 2, シンプルな構造で確実な機能を実現する事
- 3, 各部品製造や組立工程の加工能力を加味したうえで各部設計を行う事
- 4, 何度作っても同じ物が作れる事
- 5, やたらに高価にならないこと

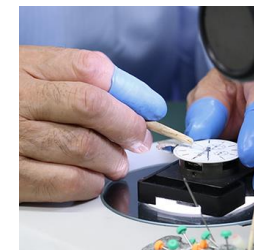
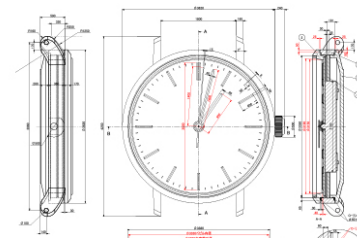
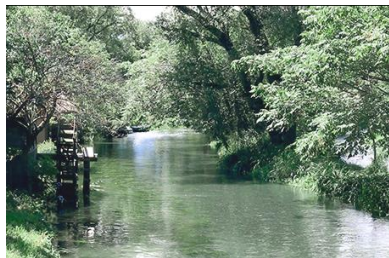
monologueという商品を通して、弊社の考える“日本製”を感じていただければと願っております。

エンジニア

“日本製”として求められるクオリティを実現するために

MANUFACTURING 株式会社 南安精工

組み立て工程（部品加工や組立）においては、設計者の意志が汲み取られる事ができるように努めています。部品製造から全てが日本製というのは価格的にも現実的にも非常に難しいですが、日本製と分かるようなデザインであったり、設計であったり部品品質であったり仕上げ品質であったりと企画から製造までトータルで考えられた「日本製」を、製品になった時に感じていただけるように心がけています。





monologue

デザイン

”

時計の機能を今の時代に
合わせ、素直に見直すこと

DESIGNER 岡谷 哲男

時計を持つことが、人生の一つの山事であった時代を振り返るとき、腕時計が複雑化する中で、本当に求められている姿は違うのではないかと思っていました。当時腕時計は、大げさに言えば夢をたくしたり、心の支えになったりしたのです。憧れの時計はそんなに複雑でもなく、シンプルで作りやすく、光沢があり読みやすい、むしろありきたりでさえありました。その思いを今回の腕時計に託すことは、時計の機能を今の時代に合わせ素直に見直すことでした。お選びいただいた時計に話しかけていただける時間を持っていただければ幸いです。

PROFILE

商品の企画・デザイン、グラフィックデザインを中心に活動。
1975年諏訪精工会(現セイコーエプソン)入社し、在職中は長くチーフデザイナーとして、新製品の開発と商品化に従事。
1990年当時最も権威があるとされた、スイス時計・宝飾デザインコンテスト『ジュネーブ市賞』にて、時計部門最高賞グランプリを獲得。



日本製レザー

